

主な内容

- 巻頭言—— 学生部長就任挨拶
特集—— 「障がい児者医療学講座」の開設について
令和2(2020)年度事業計画
トピックス—— 名誉教授称号授与式が挙行されました
フリーページ—— すこやかスポット医学講座No.93
「変形性膝関節症に対する膝周囲骨切り術」
表紙写真：満開を迎えた矢巾キャンパスの桜

学生部長就任挨拶

学生部長

古山 和道

(生化学講座分子医化学分野 教授)



令和2年度より岩手医科大学の学生部長を仰せつかりました古山と申します。岩手医科大学報の紙面をお借りいたしまして大学教職員および関係者の皆様にご挨拶を申し上げます。

さて、学生部は全学の組織で、医学部、歯学部、薬学部、看護学部に在籍するすべての学生が学生生活を送る上で必要なサポートを行うことが主な役割です。多くの学生が様々な問題を抱えて生活していますが、学生部が現在大きな注意を払うべきは、心身の健康の維持、そして確かな倫理観の確立かと思えます。

まず心身の健康の維持を考えると、現在の生活環境を考慮しないわけには参りません。ほとんどの学生がスマートフォンを所有し、周囲にはインターネットへのアクセス環境が整備されているのが当たり前の環境の中で育ってきています。親元を離れて自由に生活できるようになったために、深夜までインターネットを介したゲームに熱中するあまり学校に出てこられなくなる学生や、SNSや電子掲示板などでの他人との関わりの中で心を病んでしまう学生が後を絶ちません。その結果、学業成績が不良となる学生も少なくありませんので、学業成績と心身の健康とは密接に関連していることは明らかです。また、喫煙や肥満などの生活習慣病の原因となる様な嗜好・生活習慣の改善を目指した指導も必要と考えますし、さらには新型コロナ

ウイルスのような新たな感染症から自らのそして周囲の人々の身を守るために必要な対処法を指導することも重要です。健康管理センターのスタッフの皆さん、そして臨床心理士の皆さんとも密に連携を取りながら学生たちの心身の健康面をサポートして参ります。

また、不適切な行為により処罰される学生が近年増加していることも憂慮しています。「この程度なら」「見つからなければ」と熟慮する事なく行動する学生が増えているようで、自己中心的な倫理観がはびこりつつある事を強く危惧しています。もちろん、私共も指導して参りますが、大学および病院職員の皆様におかれましても、学生の行為や行動について気が付いたことがあれば遠慮なく直接御注意・御指導下さいませお願い申し上げます。自分は他の人から見られているということ意識するだけでも、行動変容のきっかけになるものと思います。ぜひ、皆様方のご協力をお願い申し上げます。

母校の全ての在学生のサポートができる役割を拜命したことに誇りと責任を感じながら、学生部長の重責を果たして参りたいと存じます。職員、関係者の皆様の御指導と御鞭撻を心から御願ひ申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症への対応について

新型コロナウイルス感染拡大により、4月16日に緊急事態宣言が本県を含む全都道府県に発出された状況を踏まえ、本学では4月21日の危機管理委員会において、危機レベルを最高のレベル4と判定し、学長の宣言により同日付で岩手医科大学危機対策本部が設置されましたのでお知らせします。

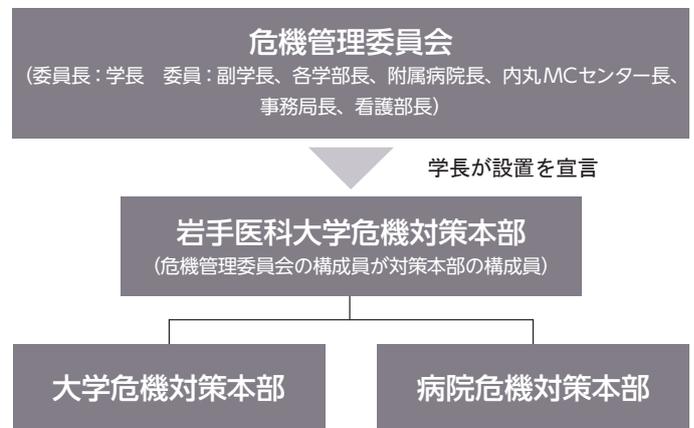
なお、5月25日に全国への緊急事態宣言は解除されましたが、人の移動等が活発化することによる感染者発生リスクが高まる事態を憂慮し、危機管理体制は維持されています。最新の情報は以下のWEBサイトで確認してください。

危機管理体制について

岩手医科大学危機対策本部の下には、大学危機対策本部（統括：医学部長）と病院危機対策本部（統括：附属病院長）が組織され、大学危機対策本部は学生や教職員（病院配置以外）を、病院危機対策本部は患者さんや病院配置の教職員を対象とした、各々に発生する事象に対して必要な対策の決定・実施、情報収集・分析、職員・学生等への情報提供等を担いつつ、両対策本部は岩手医科大学危機対策本部の下で情報共有を行い、相互に連携を図りながら、日々刻々と変化する状況に対応しています。

【危機対策本部の役割】

- ・ 情報収集、分析
- ・ 必要な対策の決定、実施
- ・ 職員、学生等への情報提供
- ・ 関係機関との連絡調整
- ・ 報道機関への情報提供
- ・ 部門、部署等の危機対策本部との連携



新型コロナウイルス感染症への対応に関するWEBサイトの開設について

岩手医科大学危機対策本部等が発出する新型コロナウイルス感染症への本学の対応に関する情報は、本WEBサイト (<http://www.iwate-med.ac.jp/covid-19/>) 内、お知らせ一覧に集約して随時掲載していきます。



■ 岩手医科大学ホームページ
<http://www.iwate-med.ac.jp/>



■ 新型コロナウイルス感染症への対応について
<http://www.iwate-med.ac.jp/covid-19/>



お知らせ一覧はこちらから

「障がい児者医療学講座」 の開設について

医学部 障がい児者医療学講座 特命教授 亀井 淳

令和2年4月、本県の障がい児者医療のより一層の充実を目指し、岩手県からの寄附講座として本学医学部に「障がい児者医療学講座」が開設されました。本稿では、概要や活動内容について紹介します。



■ 講座概要

- | | | | |
|------|---|-------|-----------------------|
| ○講座名 | 障がい児者医療学講座 | ○講座教員 | 特命教授1名、特命助教2名 |
| ○寄附者 | 岩手県 | ○設置期間 | 令和2年4月1日から令和5年3月31日まで |
| ○目的 | 障がい児者医療を担う人材育成・確保
障がい児者を支える環境の整備・充実等 | | |

◆ 設立経緯

岩手県における障がい児者に対する診療は、全国的傾向と同様に発達障がいの診療に高いニーズがありますが、1人あたりに係る診療時間は30～60分程度要すること等から、専門医療機関における初診待機が生じています。総務省調査において全国の医療機関の半数以上が3か月以上の初診待ちとされ、岩手県立療育センターでは1年以上待ちの児もあります。また、近年の新生児・小児医療の発展は、多くの重篤小児を救命してきましたが、一方で医療的ケアが必要な超重症児等の重症心身障がい児者の増加につながっており、岩手県における医療的ケア児は2018年10月時点で195人でした。知的に正常で他の合併症がない医療的ケア児も多く、保育園や通常の学校など一般社会での育ちを支えることも大切です。児童福祉法には「地方公共団体は、人工呼吸器を装着している障害児その他の日常生活を営むために医療を要する状態にある障害児が、その心身の状況に応じた適切な保健、医療、福祉その他の関連分野の支援を受けられるよう、体制の整備に関し必要な措置を講じるよう努めなければならない」と明記されています。医療的ケア児者の介護者である親の負担は大きく、頻回な喀痰吸引や定時の栄養注入が必要なため、慢性的な寝不足や学校への登下校の負担など、親へのレスパイト事業を進める社会的な

サポート体制の確立、全県における保健・医療・福祉・行政などとの連携ネットワークの構築を必要とします。

現在施行されている岩手県保健医療計画では、岩手県立療育センターを障がい児療育の中核的機関と位置づけ、障がい児者保健の課題への対応を次のとおり挙げています。障がい児者医療学講座は、この計画を効果的に推進するため設置されました。

障がい児者保健の課題への対応

- ・発達障害も含めた障がい児の総合的な相談支援等、専門的機能が発揮できる体制の充実を図ること
- ・超重症児等の受け入れなど新たなニーズに対応するため、入所や外来の受入体制の充実を図るとともに、新生児集中治療室の利用患者を受け入れる後方病床としての機能を充実するなどにより、岩手医科大学附属病院と連携した高度小児医療体制の構築に取り組むこと
- ・重症心身障がい児者、医療的ケア児者の支援ニーズに対応するため、市町村や関係機関と連携し、在宅の支援体制の整備に取り組むこと
- ・地域の医療・福祉・行政など関係機関の連携により、地域における相談支援や社会リハビリテーションを提供できる体制の整備を図り、専門的な社会リハビリテーションに取り組むこと等

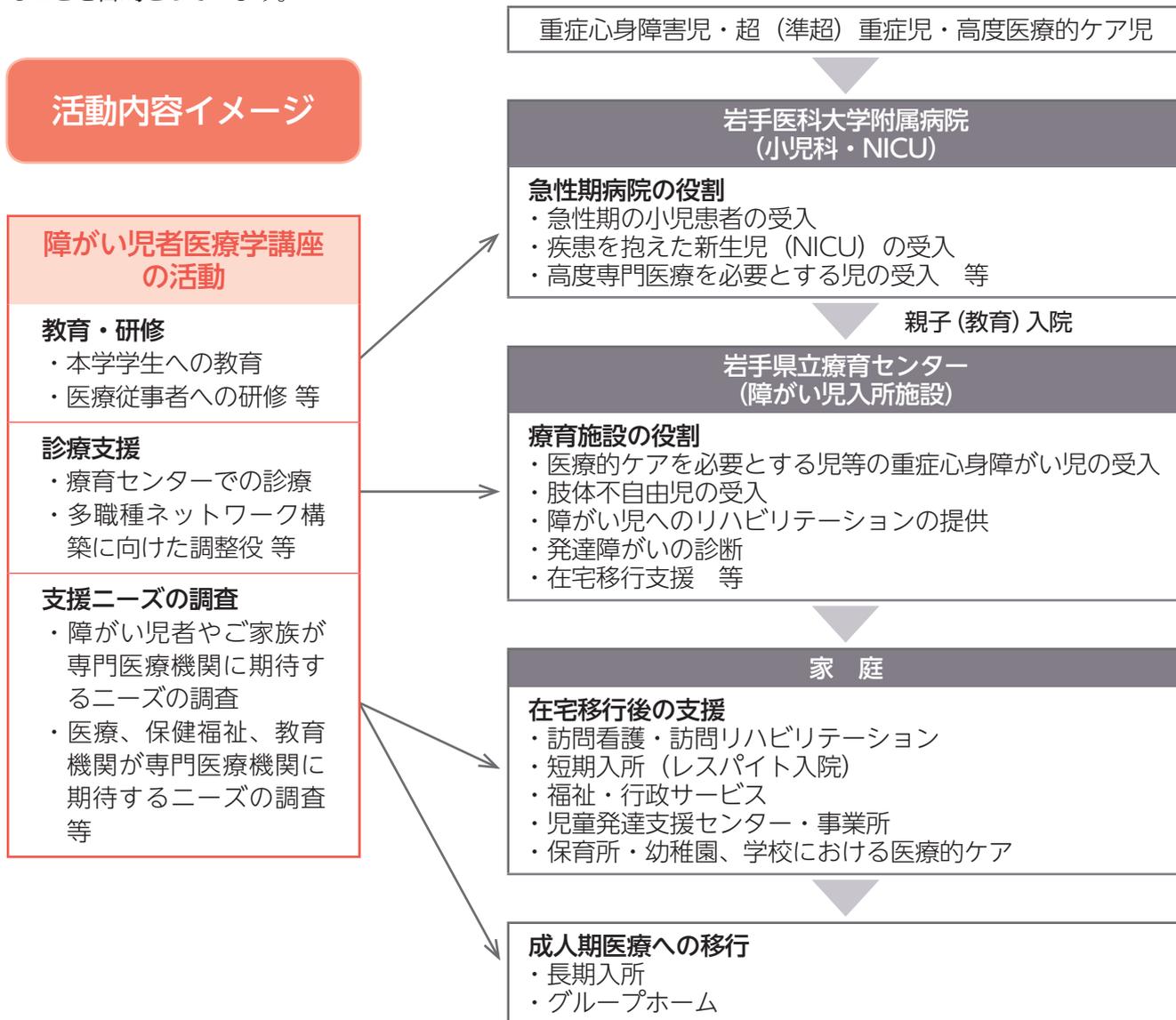
(岩手保健医療計画 2018-2023 より作成)

■ 活動内容

本講座では、障がい児者医療に関する医師、医療・福祉従事者の育成および確保の推進を目的として、この分野における医療従事者への研修や医学部・歯学部・看護学部・薬学部学生に対する教育、家族を中心に据えての多職種ネットワークの構築、岩手県立療育センターでの診療をサポートし、県が行う障がい児者への支援事業に係る助言および診療の実践により、岩手県の障がい児者に係る療育支援体制の強化を図ります。

また、県内全域における医療・保健福祉・教育機関と患者家族が専門医療機関に期待するニーズを調査します。この調査は障がい児者が適宜適切なサポートを受けることができるよう、ニーズに基づいた支援体制を強化することを目的としています。

活動内容イメージ



■ 今後の展望

障がい児者医療学講座は私を含む3名の小児科医により運用されますが、対象となる疾患は児童精神科や整形外科など他分野に大きく関連します。今後も各講座を含む先輩諸氏のご指導のもと、岩手県における療育の充実に向け使命を全うしたいと思います。何卒よろしくお願いいたします。

写真左から:高清水奈央 (特命助教)、亀井淳 (特命教授)、浅見麻耶 (特命助教)



学校法人岩手医科大学

令和2(2020)年度 事業計画

1. 背景と方針

本法人は、最新の生命科学に対応した教育・研究・診療を実践するために総合移転整備計画を策定し、本学の開設以来拠点としていた内丸キャンパスから矢巾キャンパスへの大学施設の段階的整備を進め、2019年度には集大成ともいえる矢巾新附属病院が竣工し、内丸メディカルセンターとともに開院に至った。

今後は、両病院の一体的かつ有機的な機能分担の下、内丸メディカルセンター新棟の早期整備を念頭に、安定的な収入の確保と経費削減等による経営改善策を講じ、より一層、経営基盤の強化を図る必要がある。また、社会情勢等の様々な変化を見極めながら、次代を見据えた変革を重ね、法令を遵守し、ガバナンスを確保の上、本計画で整備した医・歯・薬・看護4学部の垣根のない教育、研究環境を十分に活かし、医療系総合大学としての付加価値を高め、より質の高い教育研究活動を実践すること、国家試験合格率の向上、学生の確保、競争的資金の獲得等に努めなければならない。

本法人は、以上の背景を踏まえ、建学の精神に基づき「教育・研究・診療」を事業の柱とする本学の使命を果たすため、本年3月に「Vision 2020-2024 学校法人岩手医科大学中期計画」を策定した。この中期計画に基づき、2020年度は以下の事業を実施する。

2. 主要な事業計画

※掲載内容は、「令和2(2020)年度事業計画書」を抜粋したものです。
詳細は、本学ホームページ（情報公開→令和2年度）をご覧ください。

1 創立120周年記念事業関係

- ①内丸メディカルセンター新棟建設計画(仮称)の推進
- ②内丸地区跡地活用計画の検討の推進
- ③事業活動資金の確保に向けた募金活動の継続実施

2 教育・研究関係

- ①大学院医学研究科教育課程におけるICTの充実
- ②大学院医学研究科における情報公開の充実及び募集広報方式の改革
- ③医学部における学修支援体制の強化による医師国家試験合格率の向上
- ④大学院歯学研究科における学位論文の審査基準の設定及び学生への事前周知(早期課程修了を含む)
- ⑤歯学部教育課程の充実
- ⑥薬学部の適正な入学定員の設定と教育の質の向上等に向けた取り組み
- ⑦看護学部設置から4年間の検証と完成年度以降の教育研究組織体制の構築
- ⑧全学的教育改革の検討と支援
- ⑨教学IR(Institutional Research)の充実
- ⑩教養教育、準備教育に係る教育見直しと高大連携の改善
- ⑪シミュレーション教育環境の整備
- ⑫実習関連機器等(教養教育センター)の年次整備
- ⑬マルチメディア教室ノートパソコンの更新(5か年計画4年目)
- ⑭矢巾キャンパス施設の視聴覚機器の計画的更新(5か年計画2年目)
- ⑮入試制度改革の推進と戦略的な学生募集活動
- ⑯古書・貴重書の修復・保管

- ⑰地域への情報発信
- ⑱蔵書構築プランの策定
- ⑲社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動の推進
- ⑳学生支援体制の推進
- ㉑学生のキャリアビジョンを拡げ、希望する就職を実現するための支援
- ㉒医療専門学校の入学生確保と国家試験合格率の高位維持

3 補助事業及び委託事業関係

- ①私立学校施設整備費補助金
(共焦点レーザー顕微鏡システムの整備)
- ②私立大学等研究設備整備費等補助金
(超薄切片作製システムの整備)
- ③私立大学等研究設備整備費等補助金
(小動物用3DマイクロX線CTシステムの整備)
- ④岩手県における東日本大震災被災者の支援を目的とした大規模コホート研究
- ⑤災害対応医療人の育成に向けた取り組み
- ⑥東北メディカル・メガバンク計画
- ⑦岩手県ドクターヘリ運航事業
- ⑧岩手県こころのケアセンター事業
- ⑨いわてこどもケアセンター運営事業

4 診療関係

- ①医師の時間外労働規制に対する取り組み
- ②病院運用の効率化に向けた取り組みの推進

5 管理運営関係

- ①ガバナンスの向上等による運営基盤の強化
- ②勤怠管理システムの導入について
- ③借入金利息の支払い
- ④資金計画のための財務分析
- ⑤資金運用方針の策定
- ⑥本法人保有資産の有効活用
- ⑦仮想サーバメモリの増設
- ⑧矢巾地区A敷地無線LAN整備
- ⑨ペーパーレス会議用iPad追加購入
- ⑩標準的な内部監査手続きの徹底による法人運営の効率化に資する内部監査の実施

6 施設設備関係

- ①矢巾キャンパス電気室の直流電源装置蓄電池設備更新
- ②矢巾キャンパス外壁修繕計画の立案
- ③内丸メディカルセンター入院棟屋上防水修繕計画の立案
- ④内丸キャンパス1号館車寄せ修繕
- ⑤矢巾町・町道1号線の拡幅工事に伴うB敷地駐車場出入口の盛替工事
- ⑥図書館防災対策
- ⑦臨床研修医等宿舍の整備

本法人は、2020年度から2024年度にかけての主要計画を取りまとめ、本年3月に「Vision 2020-2024 学校法人岩手医科大学中期計画」を策定しました。

令和2(2020)年度事業計画は、この中期計画に基づき策定しています。中期計画の詳細は、学内限定ホームページ(職員の皆様へ)で閲覧できますので、職員の皆様におかれましては、ぜひご覧ください。



災害・地域精神医学講座と岩手県こころのケアセンターが北海道厚真町の「災害時自殺対策事業」への助言を行いました

3月27日（金）、平成30年9月に発生した北海道胆振東部地震で被害が大きかった厚真町で開催された「災害時の地域精神保健活動学習会」において、災害・地域精神医学講座と岩手県こころのケアセンターが、厚真町の災害時自殺対策事業に対し地域精神保健活動についての助言を行いました。

厚真町への支援は、発災時のDPAT*活動、令和元年3月の「災害後の地域精神保健活動研修会」での講演に引き続き3回目となります。本来は現地での講演会を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、WEB会議システムを活用しての開催となりました。

当日は「岩手県久慈地域における自殺対策の取り組み」および「東日本大震災における地域精神保健活動」についての講義を実施。厚真町は岩手県同様、医療や社会資源の乏しい地域であり、また、一方で移住者の多い地区では、地域保健との結びつきが薄いといった特徴があり、被災されまだまだ大変な状況の方々にどう支えていくかということが議論されました。

※DPAT：Disaster Psychiatric Assistance Team
(災害派遣精神医療チーム)



WEB会議中の岩手県こころのケアセンター



北海道厚真町との通信（町・保健所等）

臨床研修医に辞令が交付されました

4月1日（水）、附属病院10階会議室において、附属病院で卒後臨床研修を行う臨床研修医に辞令が交付されました。

■辞令交付を受けた研修医から一言

「新型コロナウイルスの影響で病院としても大変な時期の採用となりましたが、これも一つの大きな経験だと思って研修医一同頑張っていきたいと思っています。2年後、しっかり研修をやり遂げられたんだなと思えるよう充実した研修としたいです。」

(沼崎大諄、後列右から2番目)

「今から6年前の春、本学に入学し日々勉学に励んできました。そして今、再びこの岩手医科大学での新しい一歩を踏み出すことになりました。初心に立ち返り、真摯に、そして誠実に日々の研修に邁進していきたいと思っています。」(工藤正裕、前列左端)



辞令を受けた研修医12名

名誉教授称号授与式が挙行されました

4月14日（火）、本部棟4階大会議室において、名誉教授称号授与式が挙行されました。式では、小川理事長が増田友之氏に名誉教授の称号を授与し、これまでの大学への貢献に対して感謝の言葉を送りました。



後列左から 佐々木医学部長、酒井副学長、三浦副学長
前列左から 小川理事長、増田名誉教授、祖父江学長

岩手医科大学医療専門学校で入学セレモニーが行われました

4月3日（金）、岩手医科大学医療専門学校上ノ橋校舎において、岩手医科大学医療専門学校の入学セレモニーが行われ、歯科衛生学科の入学生34名が出席しました。

同校の入学式は、4月4日（土）、歯学部4階講堂において予定されていましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となり、代替措置として、規模を縮小し入学生のみが出席する入学セレモニーが行われました。

当日は入学生を代表して、新山幸乃（にいやま ゆきの）さんが「本校の学生としての自覚を持ち、勉学に精進することを誓います」と宣誓しました。



入学生宣誓



入学許可を宣言する三浦校長

なお、4月8日（水）、岩手県民会館において予定されていた「令和2年度岩手医科大学入学式」は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となりました。

今年度岩手医科大学では、大学院医学研究科博士課程31名、医学研究科修士課程6名、歯学研究科博士課程10名、薬学研究科博士課程1名、医学部123名・3年次編入学4名、歯学部59名・2年次編入学2名、薬学部42名、看護学部90名の入学生を迎えました。

祖父江学長、小笠原病院長により新入職員に向けた講話が行われました

4月15日（水）、大堀記念講堂において、4月に本学に入職した職員を対象とした、祖父江学長、小笠原病院長による講話が行われました。

祖父江学長は、本学の歴史や建学の精神について、エピソードを交えながら解説されました。小笠原病院長は、附属病院の現状や病院内で働く上での心構えについて述べられた後、早く組織に慣れて、楽しんで仕事をしよう助言を送りました。受講した新入職員にとっては、本学職員であることを自覚する貴重な機会になったようです。



祖父江学長



小笠原病院長



講話を聴く新入職員

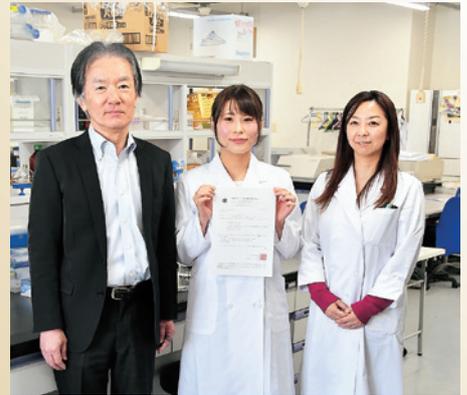


大学院薬学研究科博士課程3年の杉 悠華子さんが 永井記念薬学国際交流財団Travel Grantを受賞しました

(公財)永井記念薬学国際交流財団の2020年度助成事業において、大学院薬学研究科博士課程3年の杉悠華子（そま ゆかこ）さん（創剤学分野）がTravel Grantを受賞致しました。American Association for Cancer Research Annual Meeting 2020 (San Diego, USA) での“Advanced Properties of Vitamin D₃ Nanocarrier in Cancer Chemotherapy”という発表に対して、Travel Grantが与えられたものです。薬物キャリアであるナノメーターサイズの脂質集合体リポソームにVitamin D₃を封入することにより腫瘍細胞に対する殺細胞効果が増強すること、及び本作用にはVitamin D₃レセプターが関与していることを明らかにしたものです。腫瘍集積性という特性を有する薬物キャリアの開発は、今後の医療に貢献するものと思われま

す。杉さんは県立病院薬剤師（3月まで二戸病院、4月より中央病院）の勤務をしながら社会人大学院生として勤務後や休日を利用して研究に励んでおり、国内学会やリポソーム国際会議で研究成果を発表してきました。本Grantでの発表が、杉さんの研究者としての成長に大きく寄与するものと期待されます。

（文責：薬学部創剤学分野 教授 佐塚 泰之）



左から：佐塚教授、杉さん、杉山助教

理事会報告（3月定例－3月30日開催）

1. 2019年度補正予算について
2. 中期計画の策定について
2020年4月1日施行の私立学校法の一部改正に伴い中期的な計画の策定が義務化され、昨年8月開催の運営会議で承認となった基本方針の下に作成した本法人の中期計画（2020～2024年度）について審議し、この後開催された評議員会の諮問を経て最終決定した。
3. 2020年度事業計画について
4. 2020年度予算について
5. 役員報酬等の支給基準の制定について
6. 岩手看護短期大学及び医療専門学校歯科技工学科の廃止に伴う手続きについて
7. 役員の実任限定契約について
8. 理事の職務担当区分について
9. 教員の人事について
医学部障がい児者医療学講座 特命教授
亀井 淳（前 小児科学講座 特任准教授）

- 医学部内科学講座血液腫瘍内科分野 准教授
小宅 達郎（前 同分野 講師）
医歯薬総合研究所超高磁場MRI診断・病態研究部門 准教授
山下 典生（前 同部門 講師）
歯学部口腔保健育成学講座歯科矯正学分野 准教授
間山 寿代（前 同分野 特任講師）
医学部脳神経外科学講座 特任准教授
吉田 研二（前 同講座 講師）
医学部整形外科学講座 特任准教授
田島 吾郎（前 同講座 講師）
医学部泌尿器科学講座 特任准教授
高田 亮（前 同講座 講師）
（発令年月日 2020年4月1日）

10. 学則の一部改正等について
2020年度は、医学部、歯学部、薬学部において授業科目等の変更があることから、学則の別表1を一部改正することを承認した。（施行年月日 2020年4月1日）

新任教授の紹介

令和2年4月1日就任

法科学講座法医学分野

高宮 正隆 (たかみや まさたか)

昭和49年7月7日
岩手県盛岡市出身



研究テーマ

- ・ 損傷の受傷後経過時間推定
- ・ 法医学的な低体温症診断マーカー

主な著書論文

- ・ サイトカイン9種の同時測定による皮膚損傷の受傷後経過時間推定 (Leg Med (Tokyo) 2009; 11(4): 186-90)
- ・ 法医学的に有用な低体温症マーカー検出を目的とした副腎のDNAマイクロアレイ解析 (Ther Hypothermia Temp Manag 2013; 3(2): 63-73)
- ・ 法医病理学研究にトランスクリプトーム解析を用いる際の分子生物学的ならびに統計学的背景 (Forensic pathology 2018; 24 (1): 33-52)

趣味

読書

教職員への自己PR

岩手県の法医解剖(司法解剖・調査法解剖)は全例が県内各地から矢巾まで搬送され本学で行われています。また対象事例は小児および若年者の突然死から犯罪死まで多岐にわたります。この度、法医学分野を担当させて頂くことになりました。これからも正確で迅速な剖検診断の提供に努め、本県の医療また治安維持に貢献して参りたいと考えております。引き続きのご指導、よろしく申し上げます。

経歴

平成11年	岩手医科大学医学部	卒業
平成15年	岩手医科大学大学院	修了
平成15年	岩手医科大学法医学講座	助手
平成19年	同	講師
平成22年	フロリダ州マイアミデイド郡監察医局	出張
平成23年	同	出張帰任
令和2年4月	現職	

お知らせ

附属病院エネルギーセンター煙突への「大学病院」表示について

この度、附属病院エネルギーセンター煙突の3面に「大学病院」の表示が完了しました。県内唯一の大学病院として、県内外の広域から病院を訪れる方々に病院の位置をいち早く認識していただき、わかりやすく案内することを目的として表示したものです。

表示内容については、各学部からの意見及び岩手県条例による公共性等の制約を踏まえた上で、広く略称として認知されている「大学病院」の表記に決定しました。

(法人事務部 総合移転計画事務室)



《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰	佐藤真結美
影山 雄太	工藤 静子
松政 正俊	工藤 正樹
齋野 朝幸	及川 弘美
藤本 康之	安保 淳一
白石 博久	佐々木忠司
成田 欣弥	畠山 正充
遊田由希子	藤村 尚子
佐藤 仁	武藤千恵子
小坂 未来	高橋 慶
藤澤 美穂	

編集後記

3月の高温傾向から一転して寒い日が続き、テレビでは新型コロナウイルスのNewsが連日報じられています。

今年は、世界の感染管理の礎を築いたナイチンゲール生誕200周年です。ベッドの間隔をあけること、換気すること、誰もが感染源となる可能性があるという考えのもと、行動することの必要性を説いてきました。

まさに、ユニバーサル・プリコーションの考え方であると、ナイチンゲールの偉大さに今さらながら、驚きを感じています。

そして、普段の何気ない毎日が、どんなにありがたい事だったのか思い知らされています。平穏な生活に戻るまで、今は一人ひとりが「べからず5か条」に基づいた行動をとりたいたいものです。

(編集委員 佐藤 真結美)

岩手医科大学報 第524号

発行年月日 令和2年5月31日

発行 学校法人岩手医科大学

編集委員長 小川 彰

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 法人事務部 総務課

TEL 019-651-5111 (内線5452、5453)

FAX 019-907-2448

E-mail: kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp

スポット医学講座

整形外科科学講座 特任講師 丸山 盛貴



変形性膝関節症に対する膝周囲骨切り術

誰でも年齢を重ねれば関節の軟骨はすり減り、程度の差はありますが徐々に関節が変形してきます。特に膝関節は疫学データで高い有病率が示され、日本で変形性膝関節症を呈する人は2,000万～2,500万人、そのうち約800万人が痛みを伴う変形性膝関節症を患っているといわれています。

変形性膝関節症の手術療法には『人工膝関節置換術』と『膝周囲骨切り術』があります。人工関節の手術成績は良好で、国内で年間10万件近く行われています。一方、骨切り術は人工関節の性能向上に伴って影を潜めていた時代もありましたが、現在は手術件数が増加して年間1万件近く行われるようになってきました。それでも人工関節に比べれば1/10程度の手術件数であり、全国どこの病院でも施行されている手術ではありません。特に東北では一部の限られた施設でのみ手術が行われているのが現状です。当科も以前は人工関節の方が多く行われていましたが、現在は骨切り術の手術件数が増加し、人工関節と同程度の手術件数になっています。

1. 高位脛骨骨切り術

膝周囲骨切り術は関節を温存する手術です。人工関節と異なり膝関節に直接手を加えません。脛骨や大腿骨を骨切りすることで、下肢アライメントを矯正します。様々な手術方法が報告されていますが、最も多く施行されているのが『高位脛骨骨切り術』です。日本人の多くは脛骨の近位部が変形することでO脚になります。高位脛骨骨切り術では脛骨近位部を骨切りすることで生理的な下肢アライメント（軽度X脚）に矯正を行います。骨切り部の骨癒合が得られれば重労働やスポーツへの復帰も期待できる手術方法です。人工関節を行うにはまだ若年である60歳未満の方、60歳以上でも膝関節に負担のかかる重労働をしている方やスポーツを継続したい方が良い適応です。



変形性膝関節症術前 X線像



高位脛骨骨切り術後 X線像

2. 膝周囲骨切り術

膝周囲骨切り術は膝関節の内側または外側の関節軟骨が残存していること、炎症性疾患ではないことなどの条件があるため、全ての変形性膝関節症の方が骨切り術の適応となるわけではありませんが、患者さんの膝がこの手術に適しているときは大変有効な治療方法です。患者さん一人ひとりの膝関節の状態、生活環境、仕事、趣味なども考慮して手術方法を選択し、より良い治療を提供していきたいと考えています。



術前下肢全長 X線像



術後下肢全長 X線像